

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 24 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25862140

研究課題名(和文)回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足度を高める看護管理実践の検討

研究課題名(英文)Nursing management practice to enhance nurse's job satisfaction in rehabilitation units

研究代表者

黒河内 仙奈(Kurokochi, Kana)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40612198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、回復期リハ病棟で勤務する看護師の職務満足度を明らかにし、看護師の職務満足度を高める回復期リハ病棟における看護管理実践を検討することであった。その結果、回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足度は【リハ看護としての役割発揮】【患者の回復の実感】【患者の学習支援の効果の実感】等の7カテゴリー、看護師の職務満足度を高める看護管理実践は、【リハ看護の専門性を提供できるための教育体制の整備】【患者・家族によるフィードバックの仕組みづくり】等の7カテゴリーに分類された。

研究成果の概要(英文)：The objective was to clarify the job satisfaction of the nurse in the rehabilitation ward, to investigate 'job satisfaction of the nurse' and 'practical nursing management to enhance job satisfaction'. As a result, the job satisfaction of the nurses in the rehabilitation ward was 7 categories including [Exercising its role as a rehabilitation nurse] [Feeling of patient recovery] [Feeling of effect of patient's learning support], and others. Nursing management practices that enhance nursing job satisfaction were seven categories including [Construction of educational system to provide rehabilitation care] [Clarification of nurse's work] [Creating a feedback system by patients and families].

研究分野：リハビリテーション看護

キーワード：回復期リハビリテーション 看護管理 看護師の職務満足

1. 研究開始当初の背景

(1) 看護師の職務満足と看護師の離職および看護サービスの質の向上との関係

以前より看護職の職務満足度調査は離職防止への取り組みの一つとして行われている。離職者が多く、看護師が不足することは、看護サービスの提供を効果的かつ効率的に行うのに必要とされる知識、情報、技能などを各職員および組織が習得・蓄積することを不可能にする。(尾崎, 2008)つまり、職務満足は生産性や収益性に対してポジティブに影響する重要な要因であると言える。

病院機能評価項目には「患者満足度調査をしている」ことが挙げられており、患者満足度が病院の評価に影響を与えている。そして、患者の満足は看護師の職務満足と有意な関係にあることが多く報告されている。(Tzeng et al, 2001、Mache, 2012)職員の職務に対するポジティブな感情は、パフォーマンスの向上につながると考えられている。ポジティブな感情は、思いやりや親切を伴った行動と結びつく傾向や、患者に直接的な影響を与えることから、職務満足の向上は患者からみた医療サービスの質向上をもたらすと言われている。(藤村, 1999)つまり、看護師の職務満足を高める組織としての取り組みは、患者の満足度を高める看護サービスの提供につながる。

(2) 看護師の職務満足度調査に関する研究の現状

日本における一般病棟に勤務する看護師の職務満足に関する報告は、多く散見される。Stamps の開発した看護師の職務満足度尺度の日本語版が多く用いられてきたが、1980年代に開発されて以降、現在の日本の現状に適していない(中川, 2004)という理由から、研究者が独自の質問項目を追加あるいは変更して調査を行ったという報告も多い。このように、尺度を用いた調査に関してはベンチマーク指標として職務満足度尺度が機能していない現状がある。一方、一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する要素として、「仕事に対する肯定的感情」「専門職としての自律」「仕事の成果の確認」「上司からの支援」「他者とのつながり」「働きやすい労働環境」が報告されている。(撫養ら, 2011)しかし、対象は一般病院であるため、専門病院に勤務する看護師の職務満足に関する研究については、サンプル数も十分でなく各病院あるいは病棟での調査報告に留まっている現状がある。

(3) 回復期リハビリ病棟の整備の現状と課題

回復期リハビリ病棟とは、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折等の患者に対して、ADL能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的としたリハビリを集中的に行うための病棟であり、回復期リハビリを必要とする患者が常時80%以上入院している病棟をいう(厚生労働

省保険局医療課, 2008)。回復期リハビリ病棟は、医療従事者(医師、セラピスト、看護師など)の配置人数や、施設基準、入院期間などが定められており、2000年から設置が始まり、2012年9月現在、全国に1,471病棟、64,972床が整備されており、増加しつつある回復期リハビリ病棟は、設備の増加とともに提供するサービスの質の向上も急務である。一方、回復期リハビリ病棟のサービスの質を測定できる評価方法が少ない現状がある。また、様々な職種がサービス提供に関わるため、教育や多職種連携における管理上の困難も生じている。そのため、サービスの質の向上に取り組むとともに、サービスの質を評価するための測定ツールの開発や質の高いサービスを提供する管理モデルの検討も課題である。

(4) 回復期リハビリ病棟で行われる看護の特徴と看護師の職務満足に関する研究の必要性

回復期リハビリ病棟に勤務する看護師は、自分自身で満足や不満足を訴えることができない、あるいは自己決定が困難である脳卒中患者を対象とし、また多職種との協働をしながら看護を提供するといった環境にあり、高い看護実践が求められる。ゆえに、一般病棟で勤務する看護師とは異なる職務満足の特徴があることが予測されるが、現在のところ、回復期リハビリ病棟で勤務する看護師の職務満足については明確にされていない。さらに、看護師の職務満足は、その職場環境に大きく影響を受ける(JiSun et al, 2012)と言われていることから、回復期リハビリ病棟に勤務する看護師の職務満足を高める看護管理実践を明らかにすることが必要である。

2. 研究の目的

本研究は、最終的には回復期リハビリ病棟を利用する患者の満足度を高めることを追求する。そのために、回復期リハビリ病棟で勤務する看護師の職務満足を明らかにし、看護師の職務満足を高める回復期リハビリ病棟における看護管理実践を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 文献レビュー

回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足に関連する要因を明らかにするために、「職務満足(job satisfaction)」「やりがい(worthwhile)」「リハビリテーション看護(rehabilitation nursing)」をキーワードに2000年から2015年までに発表された文献について検討を行った。データベースはPubMed、MEDLINE、CHINAL、医学中央雑誌(ver.5)、CiNiiを用いた。

(2) 勤務する看護師へのインタビュー調査

回復期リハビリ病棟に勤務し、回復期リハビリ病棟で3年以上の勤務経験がある看護師5名を対象とした。回復期リハビリテーション病棟協

会のホームページまたは各病院ホームページから回復期リハ病棟を有すると確認できた施設に対して、施設管理者へ研究依頼文と質問紙を送付し、研究者から詳細の説明を聞いても良いとの回答が得られた施設管理者および病棟管理者に対して、書面（希望のある場合は口頭）にて説明を行い、具体的な調査方法および手順を説明し、回復期リハ病棟に勤務する看護師へのインタビュー調査を依頼した。管理者から紹介を受け、研究者の説明を聞いても良いと答えた看護師に対して、口頭にて説明を行い調査への同意を紙面で得た後にインタビューを実施した。

（３）看護管理者へのインタビュー調査

回復期リハ病棟に勤務し、回復期リハ病棟で5年以上の勤務経験を有する看護管理者2名に、看護師の職務満足を高める職場環境および看護管理実践についてインタビューを行った。

（４）エキスパートパネルによる妥当性の検討

回復期リハ病棟に勤務する看護師1名、看護管理者1名を対象とした。エキスパートの選定基準として、回復期リハ病棟で5年以上のリハ看護実践の経験があり、回復期リハ看護師認定コースを修了している、脳卒中リハビリテーション認定看護師の資格を有する、リハ看護実践に関する論文および書籍の執筆経験がある、のいずれかの条件を満たすこととした。パネリストには、文献レビューおよびインタビューをもとに作成した回復期リハビリテーション病棟で勤務する看護師の職務満足度を高める看護管理実践についての妥当性を検討した。

4. 研究成果

（１）回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足

文献検索の結果、和文献31件、洋文献20件を対象とした。文献検討および看護師へのインタビュー内容を統合した結果、回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足は、【リハ看護としての役割発揮】【患者の回復の実感】【患者の学習支援の効果の実感】【患者・家族からの信頼】【他者からの承認】【チームによるリハビリテーションの提供】【看護師の安全の保障】の7カテゴリーに分類された。

【リハ看護としての役割発揮】は、「患者がリハに取り組むモチベーションを維持できるための支援をする」「看護師としての業務に専念できる」「退院に向けた支援に自分の力が貢献できる」等が含まれた。

【患者の回復の実感】は、患者がリハを行い、日に日に改善することについて、「援助による患者の回復を実感する」、退院した患者が病棟を訪問してくれた時の笑顔を見て「患者の退院後の安定した生活を実感する」

等のサブカテゴリーが含まれた。

【患者の学習支援の効果の実感】は、「患者のニーズを知り、援助を行うことで患者が興味をもってリハに取り組む」等が含まれた。

【患者・家族からの信頼】は、患者や家族から「あなたの教えてくれた方法で体を動かしたらうまくできた」と言われるように、「自分（看護師）の言うことを信用してくれる」、「患者・家族から感謝される」、「退院後の生活について相談される」等が含まれた。

【他者からの承認】は、「他職種から相談を受ける」、「他の看護師から自分の提案したケア内容を認められる」等が含まれた。

【チームによるリハビリテーションの提供】は、「多職種でそれぞれの強みを活かしたリハを提供する」、「チームで相談することで良い計画につながる」等があった。

【看護師の安全の保障】は、腰痛などから「看護師の体を守るシステムがある」、「転倒転落リスクの高い患者にも身体への抑制をしないケア提供ができる」等が含まれた。

（２）回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足度を高める看護管理実践

これらの看護師の職務満足度を高めるための看護管理実践として、リハビリテーション病棟での勤務が未経験の看護師や、より専門性を高めたい看護師への（リハ看護の専門性を提供できるための教育体制の整備）が挙げられた。新卒看護師の多くが就職先と選択する大学病院や一般病院に対し、回復期リハビリテーション病棟は、一般病院からの異動した看護師や育児が一段落した看護師がセカンドキャリアとして選択する機会が多い。そのため、リハ看護を学ぶ機会がないままに、即戦力として就労することを期待され、また、既卒だからという理由で十分な教育を受けられない場合がある。これらに対し、リハ看護の専門性を含む教育体制を整備することが、回復期リハビリテーション病棟の看護師の職務満足につながると考えられた。

【看護師業務の明確化】については、回復期リハビリテーション病棟では多職種が協働して患者のリハビリテーションに関わることから、看護師は看護職としてのアイデンティティが揺らぐ可能性がある。チームで患者に関わる中で、看護師としての専門性を発揮できる環境を整備すること、看護師の職業的アイデンティティを高めることにつながると考える。

【患者・家族によるフィードバックの仕組みづくり】について、入院中は日々、患者の様子を観察することができるが、一度退院した患者が外来受診の際に、患者自身が病棟に足を運び、経過を報告しない限り、長期的な経過を病棟の看護師が直接見ることでできる機会は非常に少ない。インタビューの中で、患者満足度調査を実施・分析し、看護師へデータを開示することが患者の回復や患者・家

族からの言葉が看護師の職務満足につながることが挙げられた。

その他、〔自由に意見交換のできる組織風土の環境づくり〕、多職種で意見効果のできる場の提供などの〔多職種連携の推進〕、福祉用具の導入や教育プログラムといった〔腰痛予防のための仕組みづくり〕や看護師が安心してケア提供できるための〔看護管理者への教育体制の構築〕が挙げられた。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

該当なし

6．研究組織

(1)研究代表者

黒河内 仙奈（KUROKOCHI, Kana）

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40612198